

令和2年度

“村政運営”の基本方針

山田村長が今年度、どのような考えで、どのような事業に取り組んでいくのかを見ていきましょう！



1. 第6次総合計画のスタート

新しい総合計画では、10年後の本村の姿として「輝くSONZAI つながるTOKAI ～共に生き 共に育つ しなやかで活力あるまち～」という将来ビジョンを掲げました。これは、村の魅力や強みを足元から見つめ直し、将来の村の「ありたい姿」として取りまとめたものです。計画体系としては、従来の「分野ごと」「網羅的」という発想を転換し、施策の方向性を「未来を担う人づくり」「まちの魅力向上」「暮らしの基盤整備」という3点に整理しました。その中でも、“人づくり”を最も重要な柱として位置付け、「真に村民が主体となった“まちづくり”」を実現できるようしっかりと取り組みたいと考えています。

2. 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂

人口ビジョンについては、現状を踏まえて見直し、令和22(2040)年～令和27(2045)年頃の総人口を約3万6,000人と展望したところです。これまでの見立てより、若干下方修正しましたが、挑戦すべき目標として掲げており、達成に向けて着実に取り組みます。

また、総合戦略の改定内容については、新たな視点として、「横断的な枠組みづくり」「SDGsの推進」「Society 5.0の実現」を盛り込んでおり、分野横断的に取り組む先行プロジェクトとして「自家用車がなくても“移動できる”まちづくり」を掲げています。これまで、地域公共交通を支えてきた「デマンドタクシー」と「路線バス」に加え、新たに「コミュニティ・カーシェアリング」の導入を視野に入れ、地域の特性に合わせた移動手段の確保を目指します。

3. 行財政改革

総合計画において「人づくり」を主要なテーマとして掲げたことから、まずは「役場内の意識改革」をさらに徹底したいと考えています。ICT環境が日々進化している中で、業務の改善や事務の効率化はもとより、職員が未来志向でさまざまな課題に積極的にチャレンジしていくという職場文化を形成していくために、これまでの「しごとの仕方改革」から「働き方改革」へと一段ステップアップします。

4. “人づくり”

本村の強みである「住民力」を復活させるためには、地域コミュニティの再構築が必要であり、その根本となる“人づくり”から始めるべきだと考えています。特に若い世代を巻き込んだ仕組みづくりは欠かせなく、村では、県立東海高等学校との連携強化について、具体的な取り組み内容を協議します。一方で、各地域における“担い手づくり”も急務であり、次世代のリーダーとなり得る人財を見いだしていかなければなりません。地域活動への興味関心を高めてもらうことや、一緒に活動する仲間づくりが必要であるため、若い世代への働き掛けを精力的に進めたいと考えています。

5. 原子力政策

原子力政策については、国や事業者をはじめとする関係者が国民と^{しんしん}真摯に向き合うことが重要ではないかと考えています。東海第二発電所においては、再稼働に対する議論が焦点となってくるものと思いますが、実効性ある避難計画の策定や住民の意向把握などの判断要素を見極めていきたいと考えています。一方、広域避難計画については、引き続き、避難先自治体と連携した広域避難訓練等を実施することにより、住民の理解を得ながら実効性を確認していきます。原子力政策は、村にとって極めて重要なテーマであることから、今後とも慎重に対応していきます。

最重点施策 3つのキーワード

1 子育て支援

就学前の保育・教育ニーズに応える子育て支援を目指します

保育所等の待機児童問題解消に向けては、昨年から役場敷地内に整備を進めてきた新保育所「けやきの杜保育所」が5月に開所するほか、民間小規模保育施設「キララ東海ナーサリー」も今月開所しました。村では、課題とされる保育士の確保に努めるとともに、引き続き、子育て世代のニーズに応えた事業を展開します。

さらに、今後の村立の幼保施設の在り方についても、出生者数の減少や保育・教育ニーズの動向を踏まえながら、その方向性を早期に提示します。

【主な取り組み】▽「けやきの杜保育所」の開所 ▽「キララ東海ナーサリー」の開所支援 ▽保育士等緊急雇用対策 ▽東海村子育て世代包括支援センター「はぐ♥くみ」(とうかい版ネウボラ)の推進 ▽病児・病後児保育施設「るびなす」の運営

【新たな取り組み】▽ファミリー・サポート・センターの開設 ▽新生児聴覚検査の実施 ▽村立保育所・幼稚園等に関する再編検討



2 交流館の整備

「(仮称)歴史と未来の交流館」の整備を推進します



基礎工事が終了し、現在、柱や壁の躯体工事を進めています。今後は、来年7月の開館に向け、建設工事を進めるとともに、開館後の企画・運営を視野に入れた取り組みを推進していきます。

引き続き、村民の皆さんの関心を高められるよう機運醸成に努め、世代を超えて多くの方が集えるシンボルとなる拠点施設として、期待に応えられるよう丁寧に整備を進めます。

【主な取り組み】▽建設工事(12月竣工予定) ▽展示物制作 ▽事業運営計画の検討 ▽歴史と未来の交流館研究員の養成 ▽「とうかいまるごと博物館事業」「子ども科学広場」等の展開 ▽文教地区駐車場の整備検討

【新たな取り組み】旧中央公民館の解体撤去

3 基盤整備

幹線道路の整備促進と都市環境基盤の充実を図ります

土地区画整理事業の進展に伴いJR東海駅西口や村立東海病院周辺が大きく変化しているように、都市環境基盤の整備が着実に進められています。

このような基盤整備の充実は、村民にとっての利便性を一層向上させるだけでなく、村外からの転入者を呼び込む効果も期待できます。また、周辺地域のにぎわいや魅力に結び付けながら進めることも大切です。地区ごとのまちづくりを進めていく上で、しっかりと連携が図られるよう努めます。



【主な取り組み】▽国道6号東海拡幅事業の連携強化 ▽水戸外環状道路および久慈大橋に係る県事業との連携推進 ▽中央土地区画整理事業の推進

【新たな取り組み】▽駅西広場の再整備(第3期工事) ▽神楽沢近隣公園の詳細設計